

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして検査内容を変更させていただきますので、取り急ぎご案内する次第です。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■対象項目/変更内容

頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧
194	2326	抗ミュラー管ホルモン (AMH)	検査項目名	抗ミュラー管ホルモン (AMH) [CLEIA]	抗ミュラー管ホルモン (AMH)
			保存(安定性)	冷蔵 (21日)	冷蔵 (28日)
			所要日数	3~6日	4~7日
			検査方法	CLEIA	ECLIA
			基準値	下表参照	

※ その他の検査要項に変更はございません。変更後の検査要項の詳細は、裏面をご確認ください。

●基準値

新 (単位:ng/mL)		
女性	22~25歳	0.28 ~ 8.01
	26~30歳	0.29 ~ 12.2
	31~35歳	0.07 ~ 10.0
	36~40歳	9.23 以下
	41~45歳	4.48 以下

旧 (単位:ng/mL)		
女性	20~24歳	2.00 ~ 12.5
	25~29歳	1.95 ~ 10.7
	30~32歳	0.64 ~ 14.2
	33~35歳	0.89 ~ 8.31
	36~38歳	0.40 ~ 6.92
	39~41歳	0.11 ~ 7.26
	42~44歳	0.07 ~ 4.13
	45~49歳	1.52 以下
男性	0.77 ~ 14.5	

■変更期日

●2021年9月30日(木)受付日分より

抗ミュラー管ホルモン (AMH) [CLEIA]

抗ミュラー管ホルモン (AMH) は、女性において卵巣の前胞状卵胞および小胞状卵胞の顆粒膜細胞から分泌され、卵胞のリクルートメントと発育を調節している。生後および思春期前までは血中 AMH 濃度は低く、思春期を迎えると上昇し始め 20～25 歳をピークに上昇を続ける。その後、加齢に伴い徐々に減少し、閉経を迎える頃には検出されなくなる。

血中 AMH 濃度は前胞状卵胞と小胞状卵胞の数を反映するといわれていることから、卵巣予備能の直接的な指標とされている。

▼疾患との関連

多嚢胞性卵巣症候群

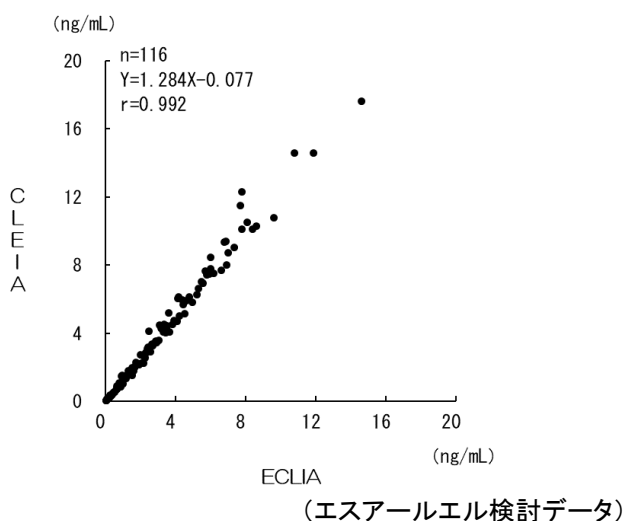
▼関連する主な検査項目

卵胞刺激ホルモン (FSH)
黄体形成ホルモン (LH)、プロラクチン
エストラジオール (E₂)、プロゲステロン

■検査要項

項目コード	2326
検査項目名	抗ミュラー管ホルモン (AMH) [CLEIA]
検体量	血清 0.5 mL (容器: →01)
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	3～6 日
検査実施料/判断料	未収載
検査方法	CLEIA
基準値	下記参照
報告範囲 (単位)	0.03 未満、0.03～99900000 (ng/mL)
桁数	有効 3 桁、整数 8 桁、小数 2 桁
備考	—
検査委託先	株式会社エスアールエル (→5)

■新旧二法の相関



■新基準値

[2326] 抗ミュラー管ホルモン (AMH) [CLEIA] (単位: ng/mL)		
女性	22～25 歳	0.28 ～ 8.01
	26～30 歳	0.29 ～ 12.2
	31～35 歳	0.07 ～ 10.0
	36～40 歳	9.23 以下
	41～45 歳	4.48 以下

■参考文献

浅田 義正, 他: 医学と薬学 76(10):1527～1532, 2019. (検査方法参考文献)
浅田 義正: 臨床婦人科産科 66(7):526～531, 2012. (臨床的意義参考文献)